

太 工 同 窓 会 報

第 8 号

昭和54年2月21日

群馬県立太田工業

高 等 学 校

同 窓 会

同窓会員の皆様へ

同窓会会長 林 進 一

同窓会々員の皆様におかれましては、益々お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

昭和五十二年六月に同窓会名簿第二版を発行いたしました。我々の調査不足による不備な所が多々あったと反省しています。第三版の発行に備えて名簿台帳の充実を計りたいと思います。勤務先や現住所が変わりましたら、至急学校、又は同窓会役員までご連絡くださるようお願い申し上げます。

話は変わりますが、「一流プロの座を守るには」という王貞治一塁手の話を讀んだ事があります。一本足打法に転向して以来、十六年間が流れた。この間、王が本塁打王のタイトルを取れなかったのは、昭和五十年の一度だけである。王が世界一の本塁打を生み、なお十六年間も、王座を守りつづけてこられた理由は、一体どこにある

のだろうか。最初に、意外と知られていないのは、「王の足の裏の長さ」で、左足が九ミリも長いという事です。一本足打法は七十九キロの体重を一度全部左足に乗せこんどは左足一本で前に押し出す。押し出す距離は八十六センチである。つまりふみ出す右足をいつも狂いのないものにしたと考えた。そこで畳に目をつけた。畳の横幅が八十三センチである。王は畳の左端に左足をのせて立ち、右端に右足をおろす。この素振りを十六年間も続けて来たのです。最低一日に百本は素振りをする。王は左足が九ミリも大きくなるほど、素振りに、素振りをくりかえし、くりかえし、世界の本塁打王になつたといつていい。しかし、十六年間という長い時間、ただ肉体的な訓練だけですごしたわけではない。精神的な問題、いいかえればス

トレス解決、もつと俗な言葉でいえば気分転換に王はかなりの工夫をしている。王の家には二台のピアノがある。王は、ハンクアローンの記録を追い抜くときも、朝起きるピアノに毎日変えてすわる。又、王は新幹線で移動するとき、居眠りはしない、ほとんど推理小説を読む。これも気分転換の一つの方法だ。

王が十六年間も王座を守ってきたもう一つの理由は「頑固さ」であつた。川上監督に、スランプの時「二本足にもどきなさい、それが最終的な打者の姿なのだから」とアドバイスをうけた。だが王は「ファンは私にホームランを期待しています。それと一本足の方が私の体質に合っているようですから」と否定しつづけた。

以上のように「一流プロ」は、体の訓練と精神の鍛錬を怠らず、信念を持つっていると感心しました。同窓会員の皆様も、毎日毎日仕事におわれてストレスがたまつておられるのではないでしようか。自分に合ったストレス解消法を見つけ、自分の信念を持つて行動して下さい。皆様のご健康と今後のご活躍をお祈り致します。

瞑想礼讃

【随想】 学校長 徳 江 浩

一億一千万人の日本人が、寝る前に五分間ずつ目をつむつて、一日のできごとを静かに振り返ると、その後の新聞記事は、政治面も社会面もがらりと変わつてしまふのではないかと想像したら、それは突飛な発想なのであろうか。さいきんの新しい教育技術に、瞑想トレーニングというのがある生徒に目をつむらせ、神経を一点に集中させる訓練をすることによつて、学習効果を上げようとするものである。情報過多の現代社会は、人間生活のすべての面で、ものを考えることを退化させているのではないかと。目をつむつてじつと考える余裕もないままに、目の前を間断なく通り過ぎてゆくパノラマを、無心に眺めているような生活を続けている間に、創造性や情緒や人間性までが徐々に退化してしまつてはないかと、そんな恐れを感じるのである。昨年、石川君、武久君というふ

たりの全盲青年が、それぞれ東京大学、東京芸術大学にみごと合格したが、盲目というハンディはかえってふたりに、「思索」という貴重なすべを与え、健康な青年たちにもみごとに勝つたのである。

江戸の中期に、今の児玉町で生まれた盲目の塙保己一は、五才の時失明し、十三才で上京してついには第一級の国学者となつた人である。

彼が七十五才でこの世を去るまでの間に完成した書物は、実に二千二百冊を超えたのである。

しかも、『群書類従』『武家名目抄』などという彼の著書は、現

最近の進路状況

進路指導主事

鈴木敏一

新規卒業生に対する求人開始は、このところ例年六月二十日からでありましたが、本年度は七月十五日となり、約一ヶ月おくらされました。入社試験は十月一日以降であるから、日数とすれば十分に間に合う筈であります。実は学校では大変な問題であつて、求人受付から数日で夏休みに入つてしまい、生徒への就職情報の提供や指導が間に合わず、職員は交替で七月一杯は出勤して求人を受

代の研究者にとつてはまさに不可欠の至宝だといふのである。

知能や人間性は、思索することなしに深化するものではなからう。病床で精神的転機をつかみ、人間的に大きく成長したという人の例はこの世に少なくない。

折りにふれしばし瞑想する機会を持つことが、現代人にとつてもつとも大事なことなのではあるまいか。

コンクリートやプラスチックに囲まれた生活はしていても、いたずらに時流にそよぐ「考えざる輩」にはなりたくないものである。

付、整理を行いました。従つて第一回の生徒、父兄への連絡は休暇中の召集日を利用して行つたようなわけで、具体的な進路選択に入つたのは、ずつと遅れてしまつたような次第です。

これは一時の高度成長期における、いわゆる青田刈りを防ぐ意味で、これは学校生活への影響から求人を遅くすることが良いとされ本来の姿にもどすといふことであるが、それにしても企業の長びく

不況・次年度への見通し難が背景となつていふことは、いなめない事実のようです。

本年度の求人状況は現在のところ前年比一〇%減で、これは昭和五十年から四年連続の減少の記録であり、企業が減量経営をめざして少数精鋭主義に転じ、特に製造業においてこの傾向が強くていふようです。

また一方では、販売、サービス業や流通産業の募集が目立ち、また地元の小企業の求人は社内の高年令化が一因とも考えられます。

生徒の希望についてみると、やはり安定志向というか大企業への希望が多いようで、また地元指向が年毎に高まつており、不況の続くなかで、公務員、公社等の関係に増加が目立つのが、このところ相変らずの傾向です。

(十月末の状況)

三年生総数 二三四

就職希望 一六一

うち学校斡旋 一四八

自営縁故 一三

現在採用試験が開始されてから

一ヶ月たった状況は内定者が、

一二名でこれは約七六%にあ

たり、内訳では県内七九名、県外は三三名

進学希望 七三

このうち約半数が四年制学部を希望し、残りが短大あるいは各種学校で、現在までのところ国立小山工専に二名が合格しました。大学への競争率の激化にともない推せん入学の希望が増加していますが、これもなかなか難しくなり、平素の学習、本人の努力が強く望まれます。昨年のことですが、新設の長岡技術科学大学に一名合格しましたが、この生徒は、三年間野球部できびしい練習に耐え、キャプテンとして活躍し、しかも成績優秀であつたため、文句なく推せんされ合格しました。強い意志と、たゆまぬ努力が、最近特に望まれます。

また各種学校の希望がふえておりますが、本来の目的であるいろいろな資格やライセンスの取得のために勉強するならば有意義であります。就職して働く意志もなく、さりとて真げんに勉強する意欲も持たないで漫然と考へているようなことでは、大変であり、この点は特に指導してゐる点です。

最後に本年度の就職関係で気づいた点は次のようなものです。

一 企業の学校訪問は、ここにきて大幅に減少している。

二 一次不合格の数が昨年に比し増加した。

三 地元大企業での選考のレベルが上った。これは不況地域といわれる北九州や東北からの受験があつた。

四 ある企業で二十名採用予定のところ十名で切つて、後は第二次募集に切り替えて水準を高める予定にした。

五 ある薬品会社で生徒が受験に行つたら予定の十倍が集つたとある中企業の担当の方が、やつと選べるようになったといふ話を聞いたが、逆に生徒は選ばれる立場になつた。

六 生徒の側では、先輩がいなか、または例年いつてないような企業は敬遠しがちである。工場の新設、または設備の移転などで割合に大量募集した地元企業もある。

【特別寄稿】

同窓生諸君へ

志村 博

「才月は夢の如し」である。私の勤務した昭和三十七、八年頃の太田工業高校の周辺は、未だ人家のまばらな田園風景であつたのが何時の間にか都会的な色彩を帯びてしまつて、往年の面影はないよ

うである。当時の生徒は一部の例外はあつたが、殆んどが勤勉で真面目な開拓者精神にとんだ若者たちの集団であつた。彼等のバイタリティに満ち溢れた青春の息吹きの中で毎日の生活が充実した張り合いのある楽しいものだった。かれこれ十五、六年前の頃のことなので記憶の薄れてしまつた部分があるが、まだ脳裏に焼きついていて、忘れ得ない思い出、教師間のこと、生徒との交流のこと等が沢山あります。

十年一昔以上の経過した現在、東毛の一隅から時代の脚光を浴びて、産ぶ声を上げた太田工業高校は県下存数の高校の中でも確固たる不動の地位を築き上げてしまつている事実が驚嘆の目を見はらざるを得ないのです。このことは現在、実業界を初めとして、諸種の分野で活躍を続けている卒業生先輩の諸君の力に依るところが多々であると確信を強めております。

私の現況は次の通りでございます。私めそれから太田女子高校へ転任、六年間勤めて現在は地元の尾島女子高校へ三年間勤めている状況であります。自宅から十分間の自転車通勤の距離で距離的には余りにも恵まれすぎている位です。もと

より尾島は私の生まれ故郷の土地で何かと便利なこともあると同時に困まることもあるような訳です。いづれにしても、私のこれからの人生はマイペースで愉快に楽しく過してゆきたいという極めて無気力な小市民的な生活に甘んじているような訳で、いわば三無主義の代表のようである内心恥じ入る者であります。卒業生の諸君におかれましては、若さとフアイトで、これからの人生を送り下さるよう熱望し期待しているものであります。

このたびは私の拙ない文面を同窓会報にのせていただけたとの事なので、実はもつと威勢のよい活動的なことがお知らせできればと思つたのですが、現実を直視すれば、まさに以上のような文章をかかざるを得ない状況であります。お許し願いたいと思つて居ります。同窓生の諸君、くれぐれもご健康に留意せられんことを祈り上げます。

【特別寄稿】

若人とともに

新井 幸子

本校が開校したのと同時に赴任してもはや十七年目を迎えたが、私の人生の中でこの間が、一番変化のあつた時代であつたと思う。

私は高校時代より七年間という間は女性ばかりの中におり、就職を機に百八十度の転換である男性の世界に入つて、最初はその寡黙に適應することができなくて、登校拒否をおこす寸前であつたが七人姉の末であつたために、弟が欲しかつた。その弟が何百人もいるのであるから、かわいくてしかたがない。そんな関係で男性の世界にも序々に馴れていけたのではなかつたかと思ふ。

又、三人の子の母となり、女性としての変革の時期でもあつた。今までは生徒を表面からの見方きり出来なかつたが、裏面からもみることができるようになつたことである。この子供達が、高校生になるまでには、親、兄弟、その他本人をとり囲む人達の愛情や思いやり、協力があつてこそ、これまで成長することが出来たのだし親にとつては世界一かわいい子供達である……。

ここでちよつぱり「商売氣」を出す話しになるが、まず養護教諭としてどんな姿勢ですすむべきかを赴任と同時に考えた。第一に、全員の生徒が、病氣のない健康な体で卒業することが出来るだけ病氣を治すように治療

通知書を出すのであるが、なかなか受診はしない。それでいつも虫歯が痛いと言つては泣きべそ寸前で薬をもらいに來た生徒もいっぱいいたつて……。

第二に保健室というところは、昔の駆込寺的役割をはたすことも必要ではないかということである。生徒達は教室でいろいろな教科でギューギューしぼられて、常に試験の点数に頭を悩まされているのであるから、校内に一カ所位はそんな場所があつても良いのではないだろうか。

数学や英語の時間の前になるといつもお腹が痛い、頭痛がするといつて駆込んで來た生徒や、柔道のある日には必ず早退したいといつてきた生徒もいたつて……。

第三に姉御的（現在は御袋的）要素を持ち、良き相談相手になるべきではないだろうか。それには部屋に入つてきやすいように、いつもドアを開けておき、明るいういムードづくりが必要ではないか。

海外レポート

『アメリカ』

一 M (同窓会書記) 天ヶ谷 勉

会社の仕事の関係で、アメリカへ二週間行けるチャンスにめぐり合わせる事ができたので、アメ

リカの観光案内を兼ね私の見たままを書くことにする。コースは、ロサンゼルス、ミネアポリス、セ

ントリス、ダラス、デンバー、リノ、サンフランシスコである。本来はアメリカのスーパーマーケット等の視察が目的であるが、仕事を離れびつしり組まれた日程の中で、どこまでアメリカを見るこ

とができたか不安であり、又私の見たものはアメリカのほんの一部にすぎず、必らずしもこれがアメリカであるとはいきれないかもしれないが、かなりのを得ていることは確かであろう。

過去を語ることは自分が年老いたということであると云われているが、私も過去を思い出し、ハツとする。青春時代は、未来に大きな夢を持ち、過去を振り返ろうなどとは微量も思わない。もう一度、二十代にもどつてみたいと思つたりもするが、それでは世の中が進歩しないことになる。でも、私は元氣な若人達と共にさまざまな思い出をのこし、人生の折り返し点をすぎ、感慨無量である。

大分時は流れたが、保健室の机や戸棚は昔の姿のまま残つております。ご來校の折には、ぜひ、お立寄りになつて下さい。お待ちしております。

四月二十四日曜日、日本国中ストライキにより交通関係が完全に麻痺状態になつている間隙をぬつて、午後四時半ペンアメリカン航空のジャンボ機で一路ロサンゼルスに向けて離陸した。羽田をたつて間もなく夕陽が急速におとずれたかと思うともうすつかり夜である。はほ満月に近い月が、どこまでも続く雲海を照らして、ほとんど静止しているのではないかと錯覚する位であるが、約五時間程で一気に夜を駆けぬけてしまふのである。羽田を出て九時間位でロサンゼルスで、ロサンゼルスは四月二十四日の午前八時すぎである。眠たい目をこすりながら入国手続後すぐバスに乗つて、視察であり観光どころではなく、過密なスケジュールが待ち受けている。

ロサンゼルスは日本人だけ憧れの地でなく、全米市民の願望を満たしてくれるものを豊富にそなえている。いろいろな意味でアメリカの夢を具現した素晴らしい大都會である。フリーウェイは世界で最たるものであり、日本の高速道路とは少し違う。料金は無料で、いたるところにインターチェンジがあり、縦横に走りめぐらされたフリーウェイどうしを結んでいる。広いところで片側六車線、普通片側四車線のフリーウェイは、制限速度五十五マイル（八十八キロ）であるが、これ以上で走っている車は見あたらない。この辺も日本とアメリカの国民性の違いがよく判る。日本の車も多く見られるが車検制度のないアメリカでは、かなりオンボロの車がよく見受けられる。又ナンバープレートのない車も走っていることがあり驚かさ

れる。我々の宿泊したホテルは、ダウンタウンより西北へ六マイルの所でハリウッドの中心街である。近くには今日でも一番多く新しい映画の封切館であるチャイニーズシアターがあり、劇場の正面には二百名近くの映画スターのサイン手、足型がセメントに残されていて、自分の手形と比べてみるのもおもしろい。ちょうど最近世界中

で大ヒットした「スターウォーズ」を上映中であつたが、こゝで見ることができずひにくにも日本へ帰つてから見る事になつた。この「スターウォーズ」のロボットもスター達の仲間入りをした。劇場は一九二七年に建てられ文字通り中国風建築デザインを取入れたユニークな建物として知られている。又ヴァイン通りとハリウッド大通りの歩道には無数のサンゴをうずめて作られたスター(星)が列をなし、その各々に有名な映画スター、タレントの名前がぎざぎざ集つてゐる。これらの映画スター達が集つてゐることで知られてゐる高級住宅地ビバリーヒルズはこゝからすぐである。南部カルフォルニアを代表するビバリーヒルズ、その中心部にあり、革新的なファッション、芸術、エンターテイメントのメッカである。さらに世界中によく知られるデイズニールランドもこゝロサンゼルスのアナハイムにある。我々はデイズニールランドを見学するどころか、なんと横のフリーウェイを通過しただけである。ただひたすら仕事である。ロサンゼルスに来て三日目、我々がただ一つ見学できたのはクイーンメリー号である。かつて一世を風靡した豪華旅客船で現在はロングビー

チに永久保存され、博物館兼毎上ホテルとなつてゐる。又船内にレストラン、商店もある。アメリカに来て気がついたことに日本の場合いたるところ横断歩道橋が見られるが、アメリカにはこれがない。又日本の場合道路に横断歩道のマークだとか、何かの制限等が道路にベタベタ塗つてあるが、アメリカでは横断歩道は白の二本線がかまれているだけで、道路を横断しようとして手を上げれば車はスーと止つてくれる。日本では考えられないことである。我々はロサンゼルスで教店のスーパーマーケットを視察したが、このスーパーマーケットも駐車場店内とも広く、それぞれ日本のスーパーの五倍位はある店ばかりで店内は明るく、清潔でクリンリネスに徹してゐるから買物していても気が持がいい。品物は豊富で鮮度もいい、問題になつてゐるオレンジは日本でいうみかんと同じ位の値段であり、一ドルで山ほど買うことができる。これが日本に来ると値段が十倍にはねあがるのはいつたいどうしたことか。よくスーパーマーケット視察の帰りにオレンジを買つてホテルでたらふく食べた。他の食べ物でも安くておいしい。特にファストフードをいた

るところで食べる事ができる。ファストフードは文字どおり、すばやくできるといふことがキャッチフレーズで、なかには車に乗つたまま注文して受けとるといったぐあいに合理性にも富んでいる。PRになつてしまふがケンタッキーフライドチキンはおいしかった。我々二十四人がいちどに買いに行つてだぶ待たされたぐらいであるから、その規模があまり大きくないことがおわかりいただけだと思う。しかし、一ドル半で飲み物付きではらいつばい食べる事ができるのであるから安い。その他日本でもおなじみの郊外レストラン、コーヒーション等がひしめいてゐる。又ステーキはポリウムがすぐうつかかり前にでる大盛りのレストラン類をいっばい食べてしまふと、ステーキを全部食ふことができなくなる。アメリカ人の食事の量に驚かされる。Tポーンステーキ、バックアロー等も食ふことができたがみなおいしかった。さらに何杯でもおかわりできるアメリカンコーヒー、最初はおちよつとストレートでは、なかなか飲めないが少し慣れてくると日本の濃くて甘いコーヒーがいかによくないかがわかる。何々ツアー等団体旅行ではあまり

うまい店には連れていつてくれないらしく、その点我々のツアーはホテル外で食ふことが多く、食べ物だけはうまいものをというこゝとで、ステーキをはじめメキシコ料理、中国料理にまでおよんだ。さらに安いことでは住宅がある。時間の余裕がありロサンゼルス郊外の建て売り住宅を見学することができた。敷地約百ないし二百二十坪平屋建て四十坪位で千二百万円二階建て六十坪で千六百万円位であるが、敷地内は全て芝生、立木もあり内装は豪華でおよそ日本の建て売り住宅とは比べものにならない程である。スーパーマーケットの他に大型ショッピングセンターを見学することもできた。後で述べるサンフランシスコ郊外とこゝロサンゼルス郊外のデルアモフツションスクウェアである。外観は窓が全くなく、日本によく見られるボスター、たれ幕等いつさいなく、およそ物を売るようなところとは思えないつくりである。駐車場は広大でショッピングセンター内に入るとアメリカの有名な小売業者がひしめいてゐる。日本のデパートを数店舗、小さな専門業者を百店舗位一ヶ所に集めたようなもので、全ての業種が入つてゐると思われる。

ここに入る前の注意として、入ったモール（通路）ナンバーを良く覚えておくことと言われた位で、一周するにはまる一日かかると思われる程である。

四月二十六日午後ロサンゼルス後にノースウエスト航空で一路ミネソタ州ミネアポリスに向つた。アメリカ国内で時差があり、ロサンゼルスとミネアポリスで二時間の時差である。ミネアポリスに着いたのは夜の十時半位であつた。途中夕日にかすむランドキャニオンの壮観な眺めをはるか上空から見下すことができた。ここを飛行機で通過するのに約二十分を費す程であるからその規模の大きさがおわかりいただけるかと思う。ミネアポリスはアメリカ中央や東よりの北部に位置し、となりのセントポールとミシシッピ川で区切られている。四月下旬とはいえまだ木々の緑もやつとほころびた位であるが、道路沿いは緑の芝生が美しく手入れされて、アメリカ特有の家並みは敷地が広く、緑の芝生にかこまれ家と家の区切りもなく、あつても背の低い生垣きであり、日本のブロックでここはオレの土地といわんばかりの風景とは比較にならない景観である。緑を大切にしないアメリカならではの

の国民性であろう。日本も国がせいまいとはいえもう少しなにかならないかと思う。まして地震のときブロックがたおれて犠牲者がでたとなるとなさらである。ロサンゼルスはフリーウェイの中にあるような街であるが、ここミネアポリスは緑の中にある街といえるほど、公園、湖等自然に囲まれている。

四月二十八日ミネアポリスからオザーク航空で、セントルイスに向つた。ミシシッピ川に沿つて南下することになる。途中飛行機は三ヶ所にたち寄るといふローカル線で、真直ぐ飛ばば一時間位のところを二時間もかかるしまつである。セントルイスは、西部開拓の基点であつた。その昔ここから西へ西へとゴールドラッシュが始まつたといわれ、街並みは歴史がいかに古く、おちついた雰囲気が高級住宅地が多い。ここセントルイスのシンボルはなんといつても高さ約二百メートル、アーチ型のゲッタウェイであり、街の東部の聖なる川ミシシッピのほとりに我々を雄壮に観迎してくれていた。内部にはエレベーターがあり、展望用の窓もあるが、我々は時間の都合で入ることができなかった。我々は、あるコントロール機器メ

ーカーのレクチャー、工場見学のあと、ディナーに招待された。場所は以前全米オープンゴルフ（知らない人に解説しておく）と全米プロ、全英オープン、マスターズとならんで世界の四大ゴルフトーナメントの一つである）の行われたペルリブのクラブハウスであり食事も豪華であつた。アメリカ人は陽気でカタコトの日本語をまじえながら、ユーモラスにしゃべりまくる、酒もよく飲む。食事が終



サンフランシスコにて

一事故を起したらかなりきびしいらしいが、酒を飲んで運転しても別に罰則はなく、本人の自覚と判断にゆだねているだけで、ここに日本と大きな違いがある。

セントルイスからバスで二時間程フリーウェイを走り、ケーブジャードまで往復したが、フリーウェイを走る車は少く、制限速度五十マイルを超えて走る車も全くな。中央分離帯は広く緑でおおわれ、まわりの景色も緑一色でありさしずめ日本人が運転すれば、おそらく日本の高速道路の制限速度を守ることは考えられないだろう。四月三十日我々は今回のツアーの主たる目的地ダラスに到着する。ダラス空港はとなりのフォートワースとの間にあり、その規模、設備は世界最大のものであろう。空港建設には地元よりかなりの反対があつたらしいが、来たるべき二十世紀に通用する空港として、話し合いにより解決したと知られている。日本のどこかの空港とは大きな意味で違いがある。ここダラスはテキサス州であるが、テキサス人は大ボラ吹きで、何んでも世界一が好きとしても有名である。その一つにアスドロームの野球場がある。ヒューストンにあるドームの球場が最も良く知られてい

つてからホテルまで数台の車で送ってもらつたが、運転手はみなかなりの酒が入っているにもかかわらず、平気でスイスイ運転しているのであるから驚いてしまう。日本ではこの酒酔い運転の罰則がきびしくなつたが、アメリカでは万

るが、ここダラスにもあり、円形のドームほどかいいものであるはずなのに、駐車場のスペースがあまりにも広いため、小さく感じられるからそのスケールがおわかりいただけるかと思う。ダラスで思いたずのは何んといつても「ダラスの熱い日」ケネディ元大統領の暗殺事件であろう。衛生中継で送られてきた影像を今でもはつきり思い出すことができる。この偉大なる人物、業績に哀悼の意を込めて現場を通過する。今ではケネディメモリアルホールとして碑が残されている。ダラスはアメリカ南部に位置し、さすがに暑い。上衣を着ていると汗ばむ位であるが、(おそらく三十度C位である)多湿な日本と違い湿度が低いためさらりとしている。アメリカに来てワイシャツを三日位着ても襟等全然汚れないが、東京では一日で汚れてしまう。いかに空気がきれいかわかる。

五月二日ダラスを後に一路デンバーに向った。デンバーは一マイル空港として有名である。そういえば、ハイジャック映画で飛行機の高度が千四百メートル位まで下がると爆発する装置が仕掛けてあり、高度千六百メートルあるデンバー空港に無事着陸することを思

いだした。暑いダラスから、気温七度Cのデンバーは寒かった。ここデンバーではスーパーマーケットを二店舗見学してから、日本でも有名な牛丼を食べたが、久しぶりに日本食にありつけたためなつかしかった。デンバーには約五時間位ただけで、直ぐにロッキーマウンティンを見ながら、ネバダ州リノに到着した。ネバダ州はラスベガスに代表されるように、ギャンブルと〇〇が許可されている唯一の州であり、ここリノも「世界最大の小都市」と自称する街で、空港のロビーに到着するなりスロットルマシーンがずらり並んで我々を誘惑している。我々はここリノから途中残雪の山々を見ながら、サウスレイクタホに向う。タホ湖はシェラネバタの山懐に抱かれ、水深が四百八十八メートルもある青く美しい湖で世界三大透明湖の一つであり、野外活動やパークに理想的な山里に囲まれている。冬はもっぱらスキーで九つのスキー場があり、その一つに一九六〇年冬季オリンピック開催地となったスタコォーバレーがある。我々の宿泊するホテルは世界でも超一流といわれるハラズである。広いロビーに入るなり、あつと驚くのはスロットルマシーン、ルー

レット、ブラックジャック等ギャンブルを行う台がずらりと並んでいる。さすがネバダ州、ギャンブルは堂々と夜を徹して続けられる。私もスロットルマシーン、ルーレットをやってみたがもうかりそうもないので直ぐやめてしまった。五月三日ホテルの建物はネバダ州、駐車場はカリフォルニア州という州境からバスで、最後の目的地であるサンフランシスコを目指して出発した。途中サクラメントに寄り約二百二十キロの旅は景色もすばらしく快適であった。サンフランシスコとオークランドを結び、サンフランシスコ港をまたぐいわゆるベイブリッジからサンフランシスコに入った。我々のホテルは良く知られているユニオンスクウェアの直ぐ近くで、ホテルの前はサンフランシスコ名物のケイブルカーがベルを鳴しながら、ガタゴト坂道を走っている。このケイブルカー、乗るには二十五セント必要であるが、払っている人をみかけないし、我々も例外でなかった。赤字は当然であろうがサンフランシスコにはなくてはならない存在となっている。

大型のショッピングセンターをここサンフランシスコでも見学できた。サンフランシスコの南にある

イーストリッジショッピングセンターである。規模はロサンゼルスで見学したのと同じぐらいであり、ウールワース、ペニー、シアーズ、マーシー等大型店、又小さな専門店がひしめいている。我々はアメリカ帯在が残り少なくなったためみやげ物をさがしはじめることになった。ここではクッキー、衣料品等を買いた。

五月五日アメリカに来て一日も休日がなかつたが、帰国する前日にやつと実現した。今日一日は仕事ぬぎでバスによるサンフランシスコ市内見物である。みなさんをサンフランシスコにご案内しよう。先ずおみやげ購入のためのデューティフリーショップ、例によりウイスキー三本、たばこ、香水少々Tシャツ、サングラス、ボールペン、ゴルフクラブ等で、特に酒類は安い。その他今回は、オレレンジ七十二個入り一箱と牛肉の燻製ピーフジャーキーと、おみやげはバリエイに富んだ。

サンフランシスコの全景を眺めることができるツインピークス、ここから北にゴールデンゲートブリッジとマリンド、東にオークランド、南は国際空港、西に太平洋と三百六十度の展望地。太平洋から吹き上げる風がいつも強く、ここ

に女性を連れてくるときはスカートに注意する必要がある。

ゴールデンゲート公園内にあり、日本庭園の近くスタインハート水族館はアメリカで最もよくできて

いる。さらにリンカーン公園内にあるカリフォルニア・パレス・オブ・リジョン・オブ・オナー(サンフランシスコ美術館)はパリの

パレ・デ・ラ・リジョン・ド・ヌールに模して作られた。ロダンの有名な「考える人」はこの中庭に

優美さを加えている。我々はバスの中から眺めることができた。

ゴールデンゲートブリッジは、ひとつなぎのつり橋では世界一の長さ

を誇り、昔からゴールデンゲートと呼ばれた湾の入口の兩岸をつ

ないでいる。全長四百二十フィート、橋の片側にある歩道から見る

サンフランシスコや湾の東沿岸地域が絶景である。霧が出やすく、

これが又あまりにも有名であろう。このゴールデンゲートブリッジを

経て、サウスサリットへ渡つた。ゴールデンゲートブリッジの北端に

ある一見イタリアのリビエラを思わせる町であり、ヨットハーバー

の続く海岸線から上の方へ目を移すと、ビクトリア様式の家々と前

衛的な建物とが肩を並べているのが見える。最近特にこの地名が有名

になったという。我々はこのから遊覧船に乗り、サンフランシスコまで約四十五分、

船の上(湾内)からゴールデンゲートブリッジ、サンフランシスコ

市内を眺めることになる。湾からサンフランシスコを見ると、急坂

な様子がよく判る。途中湾の真中に浮ぶアルカトラス島の直くそば

を通過する。この島はカルフォルニア沿岸で最初の灯台が建てられ

た所、十年余り前に閉鎖された昔の連邦刑務所の建物が残っている。

今では伝説的な存在として認められ、最近一般に公開された。

港からフィッシャーマンズウィフに行つた。ここは漁船の根拠地

であり、入江に船がたながれ、漁網を修理していたり、海産物料理の

レストランやみやげ物屋が並んでたり、地中海の風景を思わせる。

我々はこのレストランでカニ料理をたらふく食べることができた。

午後はホテルにもどつてから自由行動となり、頼まれてきた本を買

つたりするため、ショッピングに出た。サンフランシスコはカラッ

と晴れあがり気持ちがいい。街を歩いていると日本人にもかなり会

う。急坂なサンフランシスコでお

もしろいのは車の駐車方法で、駐車する場合は必ずハンドルを、

左にいっぱいきつておくことが決つており(右側の縁石にタイヤを

当てる)、これに違反すると、駐車違反より罰金が重いらしい。

チャイナタウンはホテルから歩いてわずかなところであり、前日の

夜は日本食を食べに行つた。五月六日我々は帰国のための荷

作りをはじめた。来るときは半分しかなかつたカパンの味は、みやげ物と資料できつしりいっぱい

となり、持ち上げるのにやつとである。帰りの飛行機は本来サンフランシ

スコから東京まで直行便の予定であつたが、日本で連休最後の日曜

日となり、乗客はいっぱい、みやげ物はいっぱいのため重すぎて、

燃料がもたないらしく、途中アラスカのフェアバンクに寄り給油す

ることになつた。おかげで到着予定時間がだいぶ遅れてしまつた。

二週間のアメリカの旅を急ぎ足で書いてきたが、なかなかまとま

らないレポートになつてしまつた気がする。

アメリカに行つて感じたことは、アメリカは大国であるということ

である。さらに今さわがれている省エネルギーについても、あれだ

けの持てる国(資源等)アメリカがエネルギーについて、真剣に取

組んでおり、資源のない日本はこれ以上に重大事であるという認識

を、今まで以上に今すぐ持つ必要があるということであつた。

今度は自分の金で行つてみたいと思つた。

学校だより

職員移動 昭和五十三年四月
築比地 寛先生(定数) 大泉高校

山崎 好雄先生(定機) 前橋高校
須藤 愛悌先生(体育) 前橋高校

石関 繁雄先生(事務) 板倉高校
柿沼加代子先生(図書) 尾島女高校
小川 重夫先生(定数) 太田高校

板橋 治先生(体育) 太田高校
井上 豊子先生(図書) 尾島女高校
仲山 玲子先生(事務) 藪塚中より

活躍するクラブ活動

太田工業高校生徒会

クラブ名	大会名	種目	場 所	出場選手	期 日	成 績
野 球	全国高等学校野球選手権大会群馬県予選		高崎城南球場 県営球場		7/17-7/26	準々決勝進出 (ベスト8)
体 操	県高校総体 関東高校体操選手権出場 群馬県選手権大会		茨城県水戸市	谷津利弘	6/10-6/11	第3位 第1位 個人総合5位
柔 道	全国高等学校柔道選手権大会群馬県予選	重量級	県武道館	小林 貴	6/25	第3位
スケート部	第27回全国高等学校スケート競技選手権大会	スピード スケート	岩手県盛岡市	中島雅昭	1/28-1/31	500m予11組5位 1500m予18組5位
"	第27回群馬県高等学校スケート選手権大会	"	伊香保町	中島雅昭 部員9名	2/15-2/16	一部500m6位 二部総合優勝
ラグビー部	昭、52年度新人戦 昭、53年度総体 関東大会出場 全国大会県予選大会		太田高校 前橋県営ラグビー場	窪他 20名 窪他 30名	2/10~ 5/19	総合第3位 ベスト4 ベスト6
陸上部	県高校総体総 群馬県高等学校対抗陸上 競技大会		高崎市 伊勢崎市 伊勢崎市	細井 他 部員全員 細井 豊 田村勝基 西出 毅	5/19-5/21	総合第6位個人1 位 2部総合3位 砲丸投1位 投円盤投3位 円盤投 1位 砲丸投4位 110mH2位400
バスケット部	県高校強化大会 新人大会	バスケット	桐生市 桐生市		8/17/8/19	準決勝進出 出61-42 (太高一太工) ベスト8
山岳部	夏山合宿	登 山	北アルプス上高地 大天井岳縦走	部員5名	7/26-7/30	全行程完走
サッカー部	県高校総体	サッカー	前橋市	部員全員	5/21	2回戦進出
バレーボール部	県高校総体 県高校選手権 秋季大会		伊勢崎市 高崎市 高崎市	15人 15人	5/14 6/18	2回戦進出 3回戦進出 2回戦進出
庭球部	県高校総体 個人戦	軟 式	高崎市宮コート		5/14	3回戦進出
卓球部	県高校総体	団体戦	桐生市民体育館	5名(団体)	5/19-5/20	3回戦進出
定時制 陸上部	全国定時制陸上大会県予選	砲丸投	桐生市	小林正雄	6/4	第3位 全国大会出場
文芸部	夏期研修旅行 (鎌倉文学・歴史散歩)		鎌倉市	クラブ部員 全員	8/15-8/17	多くの史跡・碑 を見学
フラッシュ部	太田市民祭		太田市	部員全員	10/15	

会員だより

計報(五四・二・八現在)
小野沢孝也(十四期E)
小林 正博(五期E)
同窓会では、既に三十三名の方々が永眠されました。
謹んでおくやみ申し上げます。

編集後記

第八号の発行が大変遅れたことを詫びいたします。さらに原稿をいただいた先生方に深く感謝いたします。
早いもので卒業して今年で十四年目になりうとしている我が第一期の機械科A組のクラス会を行つたが、なつかしかつた。又会えるのが楽しみである。(天ヶ谷記)

